

遠投用のウキも準備

竿・ライン・ハリとききましたが、セレクトの難しいのがウキです。好みや釣技の個人差は別として、大きく分けて、近距離タイプの小粒と、遠投がしやすい大粒タイプは準備します。フカセ釣りだから足元だけを狙うという考えは、古いです。

遠投をして、フカセ釣りで狙える範囲は、どこまでも狙うと考えると下さい。沖にいい潮目があれば、タイレクトに狙い、潮が沖の沈み瀬に流れている時は、迷わず遠投します。流してやれば、いいと考える人も居ま

すが、途中でエサ盗りにやられることもありますので、遠投が出来る大粒のウキがあると、直接狙った方が効果があると思います。浮力は好みがありますが、0号タイプとBから3Bがあると心強いです。

よく釣る人は、マキエサも多い

最後にマキエサですが、一日分の目安として、私の場合、オキアミ(生)3kgを3角。ジャンボアミを1角。これに配合エサを集魚タイプと遠投タイプ、そして白くにごるマーカー的な役割を持つている物と3

袋を準備して、これらを2回に分けて作ります。

とにかくマキエサは、多く準備して、どんなに下さい。よく釣る人は、多くをまいて、いると思います。魚を釣った足止め用に打ちます。仕掛けチェンジの前後にも必ず入れ、おこ。コーヒーを飲む前と後にもマキエサを入れる。仕掛けを入れる入れないに問わず、マキエサは少量でもいいので、必ず入れるようにすると、次の魚の反応が早いです。詳しくは写真を参考にしてください。

最後に

12月下旬から1月にかけて海水温が20度を下回りだすと、いっきにクロが接岸を始めて磯に着き始め、海藻やのり等を食べて丸みをおびて脂がのってきます。クロ釣り師が、待ちに待った寒グロ期突入となります。クロを手にするための基本は、

①潮を読む

左に右に沖に、逆に足元にどのような流れに流れているか？どこか潮がぶつかるところはないか？潮目は、あるか？見えるか？見えない潮目はないか？沈み瀬・海溝はあるのか？その沈み瀬に潮は流れていないか？海溝に対して潮はどう動いているのか？潮の「ヨレ」変化がある所はないか？

②マキエサ

①の潮を読んで、マキエサの打ち所を決めます。エサ盗りが居れば、エサ盗りを手前または逆に沖に釘付けするようにマキエサを入れます。そして、本命のクロ用のマキエサをどこに打てば一番良いのか考えます。エサ盗りが気にならない時は、潮に対して、潮上・潮中・潮下と3点打ちをしたりします。また、潮があまり動いていない時は、ウキを中心に囲むように打ちます。4点打ち・3点打ち・2



固め打ち



2点打ち



3点打ち



4点打ち

点打ち、もしくは、ウキから少し離す固め打ち等。やり方は、いろいろあるので、その時に一番効率の良い打ち方を模索します。

戸島の東側の小さな離れ磯のカケガリ。定員は1名ほどで、その名の通り、釣り座は斜めになっています



良型チヌゲット！

痩せてるね
もっと餌食べてね